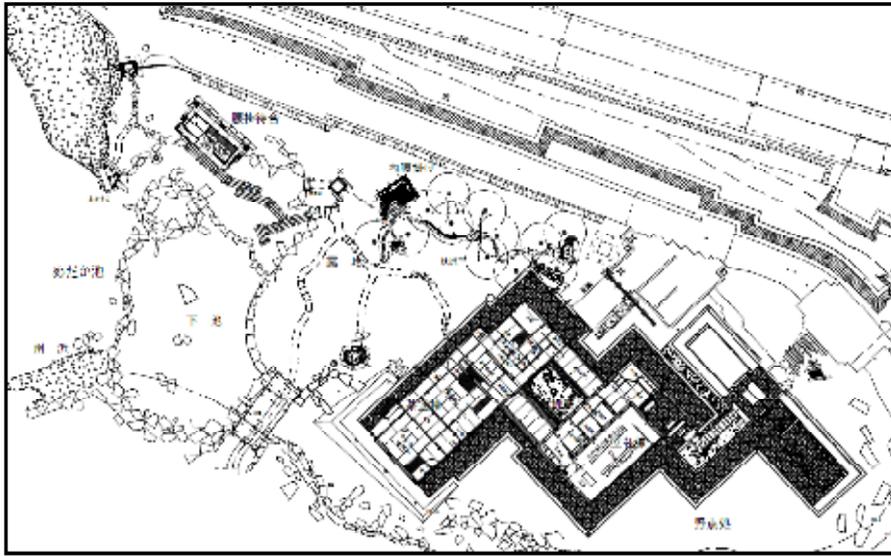


日本庭園 ～見どころ案内～ 露地～野点処



○広間前の露地は大川込みの中に飛石が打たれ、武家茶の印象を高める城積みに抱かれて大ぶりの降りつくばいが据えられています。武家茶にふさわしい大らかな露地の造りです。



○对象的に内腰掛から小間に至る道程は、メタセコイアの暗がりの下に広がる地苔の侘びた世界です。腰掛に打たれた飛石・敷石、雨落ちの風情、つくばい、枝折戸、ひとつひとつの点景に心配りを感じる、心地よい緊張の路の景です。



○茶室東側、立礼席にの前には緩やかな起伏を持つ芝生の野点処が用意されています。うねる芝生にクロマツの点景。彩りを抑えた緑の広場に野点の緋毛氈が映えます。



○めだか池北岸の州浜から続く湿地の水辺に建つ舟屋を模した腰掛待合、そこから続く八つ橋、土橋を横に見て大川込みから茶室に至るまでの露地の景は、愛知にもゆかりの「伊勢物語」の情景です。



○州浜は「伊勢・尾張のあはひの海づらを行くに、浪のいと白く立つを見て『いとどしく過ぎゆくかたの恋ひしきにうら山しくもかへる浪かな』となむよめりける。」の見立て。湿地に咲くカキツバタ、三河の八つ橋へと続き、さらに土橋の奥へと続く道は、「いと暗く細きつたかへでの道」、かずらの細道です。



○芝生のうねりは主庭の野筋の起伏と幾重にも重なり、その先に周囲の緑を背景として四阿が見え隠れします。この庭園のひとつの見せ場です。